

高澤山 古代観音祭

石原の

# ささら獅子まつり

川越最古・最美  
獅子のお祭り  
壮麗・優雅



獅子のお寺で  
守護

とどろか  
かく開運

高澤山・観音寺

令和5年

# 4月16日(日)

午前 9時 観音寺・石原町1丁目

午前 10時～ パレード・門付け

午後 1時30分 観音寺・石原町1丁目

午後 3時30分 石原町2丁目・第2公園

最新情報をご紹介 Facebook & Instagram  
お問い合わせ / 石原のささら獅子舞保存会  
090 3225 6003 三澤



Facebook



Instagram

# 悪魔降伏・災難消除・国利民福

## 埼玉県無形民俗文化財 石原のささら獅子舞

4月18日、市内石原の観音寺祭礼として行われる、獅子3頭に、悪魔除け・安産・子育ての3つの願いを託し、町内を回る。風流（ふりゅう）派「一人立 三頭獅子」 龍頭の獅子。

この寺は比叡山の末寺で、弘法大師の草創にかかり、後に慈覚大師が再興し、受胎・安産の靈験顕著なるをもって、「世継観世音」と称される。その後、長盛上人が中興し、慶長12年（1607年）3月、「偏木獅子舞」を創始した。

以来川越城内にて、悪魔降伏・災難消除・国利民福、の祈禱をし、領主から祭礼祀粢（しさん）料を賜った。

ただ寛永11年（1634年）時の川越城主 酒井讃岐守忠勝が若狭小浜城へ国替となった折、獅子舞を愛好するあまり、雄雌2頭と演技者30余戸を若狭小浜へ帯同させた、そのため「ささら獅子舞」は中断してしまった。

しかし、宝永6年（1709年）に、高沢町の井上家から獅子3頭が奉納され、75年を過ぎて再興され、今日まで約300年間、大切に伝承されている。（寄進／水村甚左門忠直より獅子三、天狗面一、他）

若狭小浜においても、関東組と称え城主加護の元、「川越獅子舞」は神事獅子舞として続けられた。一時中断するも、明治になり「雲浜獅子」と命名され、伝承されている。

## 獅子の演奏

☆警護・錫杖・拍子木(天童)・山伏・天狗・天女(ささらっ子)・謡い方・笛方と並ぶ。天女には、桜花咲く錦笠を介添えが捧げる、前列2人には、日輪月輪を象っている。

♪ チー・カタカタ・ドン・ドン・

●山の神に導かれた3頭の獅子は、楽しそうに遊びながら、にぎにぎしく庭に繰り込む。

●庭に繰り込んだ一行は、笛方は右、謡方は左、ささらっ子は四隅へ、天狗山伏天童などは正面に座し、いよいよ山の神の指揮のもとに闊歩飛行の構えに入る。

●準備いよいよとなり、大足に闊歩して3頭入り乱れて飛行する。山の神、軍配を上げ采配を振る。獅子の先に立ち、ときに獅子の後ろに廻る。獅子は従い舞い、獅子は従い踊る。

●小唄を始める。獅子は、里の繁栄を歎び、広い野原いっぱい狂い踊り、花に戯れる。

♪ やれ出たそれ出た 亀の子が出たよ

親ももぐれば その子ももぐる

♪ 十七の むねにかざりし 光もの

一つください 国の土産に

●長唄を始める。伸び伸びと、ゆったりと、日や月の光の恵みを受けた桜花の乱れる中を、3頭が共に楽しく遊び戯れる。

♪ この宿は 縦が十五里 横七里

いりをよく見て ではにまような

♪ 武蔵野に 月の入るべき山もなし

うはのかくれに 月はよこ雲

●2頭の雄獅子の様子は一変し、形相を変え互いに牽制しあう。

天女(ささらっ子)は中獅子(雌)の両側一列になる。中獅子を隠すかの如く、日の光り、月の明かり更に輝きを増し、くまなく射し照らし、桜花の美しさをさらに引き立てる。

その欄漫たる桜の樹の下に立つ中獅子を中心に、先後の両獅子は5回ほど争う。獅子は狂い舞う、しかし、山の神は論し導き、中獅子は桜花に隠れ愁いつつ、静かに単調な太鼓の響き。

ささらの音に和し、笛の音も哀しく、激しい乱舞のあいだを流れる。先獅子は3回勝ち、後獅子は2回勝つ。

仲獅子は中に交わって、ついに元のように仲良く親密で楽しい仲間に戻る。

★勇ましくかつ美しい、雅やかで品がよく、なおかつ飾り気がなく素朴である。

優雅さが心に染み込む。そして、安らぎと心地よさが心に残る。

●山の神に導かれ3頭の獅子は、闊歩飛行し、楽しそうに遊びながら庭を去り、そして帰路につく。

♪ 日はくるる 道の根笹に露はおく

お暇申して 戻る獅子どの

『鯉獅子由来記』大正14年10月25日発行

現代表記に編纂

石原のささら獅子舞保存会